

**浦高男児の正しい散りかた!**

●浦高同窓会記念講演会・懇親会から!



昨25日(日)午後3時30分からは、大野 曜吉氏(高24、日本医科大学大学院研究科教授)から「浦高男児の正しい散りかた～死んだらどうなる?法医学の視点から～」という題の講演会が行われました。

\* \*

◆浦高男児の正しい散りかた～死んだらどうなる?法医学の視点から～

最初に大野氏が歩まれてこられた大学の解剖室の様子が紹介されました。印象的な言葉から…

◇大野氏「皆さんは解剖室は、暗くて冷たいイメージがあるかも知れませんが、東北大学の解剖室は大きな窓からの光も入り、実は明るい部屋なのです。そして、解剖台は“真実は大大理石の上で暴かれる”という言葉があるように大理石で出来ています。」と、琉球大学の解剖台はステンレス製、日本医科大学の解剖台はステンレス台の中央部に大理石が嵌め込まれているとのことでした。

また、解剖研究室には、臓器保管庫が付いているようですが、刑事事件の時効がなくなったために、解剖して取り出した臓器などを永久保管しなくてはならないという状況が生まれてきているそうです。

さて、法医学解剖と呼ばれるのは、“司法解剖”“行政解剖”“承諾解剖”“死因調査法による解剖”の4つあるそうです。大野氏の資料から…

① 司法解剖

捜査機関(警察・海上保安庁など)の依頼(鑑定委嘱)により、裁判所の許可を受けて(鑑定処分許可状)、学識経験者(大学法医学教授・准教授など)が行う解剖。対象は犯罪の被害者となったことが疑われる死体。目的は裁判のための証拠の収集(剖検所見もその1つ)と操作への参考資料の提供(凶器の推定、死後経過時間の推定など。)

② 行政解剖

死体解剖保存法第8条の監察医制度に基づいて行われる解剖。東京23区(東京都監察医務院)、横浜市(特殊)、大阪市、神戸市、名古屋市(限定的)。目的は死因の究明。監察医の検案対象は、すべての外因死および死因不明の死体、従って病院内での死亡も病死以外は検案対象となる。その中で検案しても死因のわからないものが解剖となる。

◇大野氏「東京都23区内で年間2500体程度あります。」

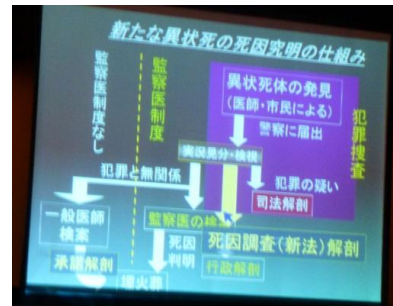
③ 承諾解剖(準行政解剖)

死体解剖保存法第8条の適用外の地区(上記5地区以外)で死因究明のために行う解剖。警察嘱託医

などが検案後、法医学教室(例外あり)で行う。死体解剖保存法第7条の規定により遺族の承諾を要する。解剖要否の判断は警察が主導で行う地域が多いが、運用は少しずつ異なる。茨城県(筑波剖検センター)、埼玉県(埼玉大・日大)、東京三多摩(慈恵・杏林)、神奈川県(北里・東海など)、沖縄県(琉大)。

④ 死因調査法による解剖

警察等が取り扱う死体の死因又は身元の調査に関する法律(死因調査法、2012年6月15日成立、2013年4月実施)による、警察



などが犯罪の見逃し防止と死因究明の観点から、

司法解剖の手続きによらず、強制的に行える解剖。各法医学教室で行う。優先度は 司法解剖>死因調査解剖>行政解剖 の順(?)。東京23区は大学で(観察医務院では扱わない)。承諾解剖(自治体負担・遺族負担)はなくなる?

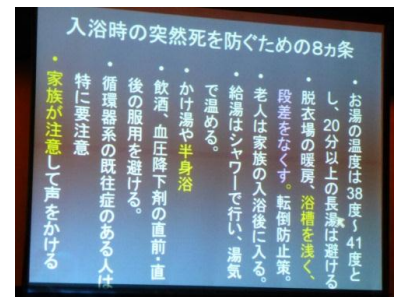
\* \*

ここまでが前半の20分で、会場を見渡した大野氏から「同窓会も我々が若い方ですから高齢化が進んでいます。ここで高齢者の増加における法医学的問題点について触れたいと思います。」と…

\* \*

◆高齢者の増加における法医学的問題点

- ① 独居の増加による孤独死 自殺も  
病歴不明+死後変化 ⇒ 解剖せざるを得ない
- ② 高齢者世帯の孤立死  
死因不明 無理心中の可能性 ⇒ 解剖
- ③ 家庭内での事故死  
食物誤嚥  
浴槽内溺死
- ④ 高齢者の交通事故死  
徘徊者の事故、  
疾病と外傷との死への寄与 ⇒ 解剖
- ⑤ 病院内での入院中の死亡  
死因究明と原因究明 ⇒ 司法解剖例紹介



\* \*

上記の問題点については暗くなる話題なのですが、大野さんが話されるとそれほど暗くなく捕らえられ面白く拝聴できました。最後には、病院内での入院中の死亡例を検査している大野さんのビデオなども流れ、テレビなどとの違いも…。ありがとうございました。

\* \*



午後4時20分からは懇親会が幹事24回生のもと盛大に行われました。川野会長のご挨拶に続き、旧制浦和中学校48回(1947年3月卒業)の磯良彦先輩のご発声で乾杯になりました。



【写真④：乾杯の音頭をとる浦中48回・磯様】

◆磯氏「総会も無事に終わりました。川野会長をはじめ皆さんの力で同窓会を盛り上げていただきたいと思います。私も85歳になりましたが、ぜひ来年の総会にも出席したいと思います。皆さんのますますの元気と浦高、浦高同窓会の発展を祈り、乾杯！」と、85歳とは思えないかくしゃくとしたご挨拶でした。私が出た限りにおいては、磯先輩は毎回参加されていてらっしゃると思いますが、来年も高輪からご出席いただけることをご期待申し上げます。磯先輩は100周年の実行委員長だったそうです。

最年少は高校62回生(2010年3月卒)ですので、実に63歳の年齢差も溶け込めるのが同窓会です。



【写真⑤～⑧：4人の副会長】

懇親会の途中で新任の4人の副会長さんたちからご挨拶がありました。写真の左上から加瀬豊氏(高17)、木村恵司氏(高17)、左下から岩淵均氏(高18)、野辺博氏(高24)の皆様。



最後は応援団の指揮で校歌斉唱【写真⑨】。さらに



11回生の志村嘉一郎氏の一拍子から三三七拍子の手締め【写真⑩】とエールにてお開きになりました。幹事年の24期の皆さん、お疲れさまでした。

\* \*

来年度は、私たち高25回(1973年卒)が講演会と懇親会の幹事を務めます。私たちは【成功させよう27年同窓会総会 ～来てよかった、また来ようと思ってもらえるような“おもてなし”の会～】を目標に掲げて昨年より活動を始めました。今回も総会には23名が参加してくれ、浦高25期会代表の藤江昌嗣君が来年への決意を語りました。



【写真⑪：総会・懇親会に集まった25回生の面々】



この後、キンシティ浦和店で開催した同期会には恩師の森朝男先生【写真⑫：中央】もご出席いただき、21人で来年度の総会・講演会・懇親会に向けての楽しい話し合いが行われました。